

国語の長文読解方法（説明的な文章）

これまで、国語も数学も英語も、学校や塾のやり方を優先して、じいのやり方を慶ちゃんにすすめてこなかったよ。

でも、7月30日のパパママの入ったミーティングで、慶ちゃんが読解の問題は本文を見ずに、設問を見て、それと関係する部分の本文を見て解答すると言ったよね。

この慶ちゃんの今の読解法は、なおした方がいいと思うから、じいの読解方法を紹介するよ。

すでに知っている点もあると思うし、イマイチと思う点もあると思うから、いいと思う点だけ採用してね。

まず、

1. 「読書」と「読解」の違い

「読書」は読み手が好きなように読めばいいよ。

この点はその通り、だけど、この点は違うよなあ、などと読めばいい。

これに対して、

「読解」は、筆者の論の進め方や主張にそって読むよ。

読み手への評価や感情は一切不要。

極論すると、設問に対し、問題文中から設問に対応する箇所を抜き取ればいい。こういうと、じゃあ慶ちゃんの方法でもいいんじゃない、と言われそうだけど、読解も、入試問題などになるとかなり難しくなる。そのひとつが設問の傍線部と関係する問題文の箇所が離れてきたりする。そうすると、今の慶ちゃんの方法ではたちまち正解にたどり着けなくなる。

じゃどうすればいい？

はじめに文章の種類を確認しておこうね。

2. 「説明的な文章」と「物語的な文章」

出題される文章の種類には「説明的な文章」と「物語的な文章」があるよ。

説明的文章とは、物語文などと違い、主人公が存在しない文章で、筆者の主張などが根拠をもとにして論理的に述べられているものだよ。

いよいよここからが、読解方法の説明だよ。

[文章構造の把握][文章表現の把握][設問の読解]が必要になるよ。

3. 「文章の構造」を把握する

決まった1つの構造があるわけではないよ。

筆者によって、文章構造は異なるよ。

市販の教科書ワークの「クジラの飲み水」の構成にしたがって、各構成要素が
どういうものかを説明するよ。

「クジラの飲み水」の構成では、「序論」「本論」「結論」の構成にしているよ。



背景説明：

取り上げた問題に対して、多くの人はこう思っているのではないか、
でもね、実はこうなんだよ。

だから問題として取り上げたんだよって説明するよ。

問題提起：

筆者のとりあげた問題が何なのかを読み手に紹介する。

多くの人が当然と認識して、関心をしめさないことなどをとりあげるよ。

本論

一般論

一般的な意見の例だよ。

多くの人はこの問題に対して、こんなふうに思っているんじゃない。

筆者の言いたいこととは違うことを言うよ。

筆者の意見との「対比」対象だよ。

筆者の意見や事実

多くの人が思っていることと違って、実はこうなんだよ。

一般論との「対比」対象（事実など）。

一般論と対比させることで、両者の違いを浮き彫りにするよ。

結論

問題提起に対する答えだよ。

4. 文章の表現方法

大事な表現方法が3つあるよ。

[具体と抽象] [対比] [因果関係]

筆者は文章を読み手に説明するために、上記3つの表現方法を使うよ。

詳細は個々の箇所の説明するよ。

概略は以下。

[具体と抽象]

りんご、みかん（具体） つまり くだもの（抽象）

くだもの（抽象） たとえば りんご、みかん（具体）

[対比]

水の中にいる生物は、飲み水として海の水を飲めばいいんじゃない（一般論）

しかし

海の水は飲めない。クジラはこんなしくみで飲み水を得ている（事実など）

[因果関係]

海の水は飲めない（結果） なぜなら 塩分濃度が高いからだ（理由）

塩分濃度が高い（理由） だから 海の水は飲めない（結果）

3つの表現方法とも多くは「接続詞」が目印になるよ。

だから、読解においては「接続詞」の取り扱いを教えられるんだよ。

「表現方法」と「接続詞」の対応一覧は、別の機会にまとめるね。

5. 設問の読解

読解に関係する人物は3人いるよね。

「筆者」（書き手）、「受験生」（読み手）それと「出題者」（設問作成者）だ。
設問は出題者が受験生の理解度を測るために設定するよね。
じゃ、どのように測定するのかね。

前述した1. 「読書」と「読解」の違いで

「極論すると、設問に対し、問題文中から設問に対応する箇所を抜き取ればいい。」と言ったけど、この点をもう少し詳しく説明するね。

読解に対する解答の仕方は、一言で言うと「**いいかえ**」だよ。
読み手が筆者の意図通り正しく読解できているかどうかを、正しく「いいかえ」できているかどうかで判断するんだよ。

「いいかえ」の測定は、「4. 文章の表現方法」で説明した「3つの表現方法」で行われるよ。

だから、たんに「設問に対し、問題文中から設問に対応する箇所を抜き取ればいい」ということではなく、たとえば、設問が「**具体**」なら多くは「**抽象**」表現をしている箇所を探すことになるよ。
あるいは、設問の「**結果**」から本文中の「**原因**」を探したりすることになるよ。

以上のような作業をすることになるので、

まず、設問の読解においては、

(1) 設問のタイプを判別する

「**具体と抽象**」の設問なのか、「**対比**」「**因果関係**」の設問なのかを判別する必要がある。

そして、設問が「**具体と抽象**」の言いかえをみる設問で、設問が「**具体**」であれば、本文中からその「**抽象**」を探すことになる。

設問が「**対比**」の言いかえをみる設問で、設問が「**一般論**」であれば、本文中からその対比内容の「**事実**」などを探すことになる。

また、設問が「**因果関係**」の言いかえをみる設問で、設問が「**結果**」であれば、本文中からその「**原因（理由）**」などを探すことになる。

そして、「**理由**」を聞かれているなら、当然、答え方は「**〇〇だから**」で答えることになるよ。

設問タイプがわかったら、つぎに

(2) 「傍線を含む一文」を検討する

傍線部のある問題は、傍線部だけで検討するのではなく、「傍線を含む一文」で検討するよ。

そして、その一文の中で、「主語」「述語」「指示語」「接続語」を確認するよ。

主語や述語が省略されている場合は、それらを補うよ。

あるいは、主語が「彼」となっている場合に「彼」とはだれかをはっきり認識する必要があるときなどがあるよ。

つぎに、多くの場合、詳細に検討する箇所を特定する必要があるよ。

(3) 本文中から「答えのてがかり」を探す

これには、指示語を使うことが多いよね。

指示語の指示先が正確に把握できないと、正解は見つからないね。

詳細に検討する箇所が見つかったら、

(4) 答えの手がかりをもとに正解を選ぶ(4択の選択方法)。

読解の設問の解答方式は選択式がほとんどだよ。

とりあえず、記述式の解答方法はおいといて、4択の解答方法を説明するね。

4択は記述式に比べ楽なような気がするけど、常識的に正しい選択肢を用意するなどひっかけは多いし、0か満点かだから、ある意味、厳しい出題形式だよ。

出題者は正解を作成した後に、その一部を変えて、誤答を作るから、解答者にとっては似た選択肢が多く、選択に迷うよね。

なので、選択形式の設問では、

1) はじめに自分なりの正解を検討し、その後、それに最も合う選択肢を選ぶという手順がおすすめだよ。

2) そして、選択する際には、選択肢を細分して評価する方法がおすすめだよ。

以上で、とりあえずの読解法の説明は終わるけど、今後、

「文章構造の種類」「文章表現方法の種類」「設問タイプの判別方法」など、慶ちゃんと一緒に勉強していくことになるよ。